

# 6-4

## 通所介護・個別機能訓練の仕組み作りの成果と課題

要介護度1～5の機能訓練の評価測定と見える化の取り組みより

個別機能訓練

通所介護

通所介護・桜町高齢者在宅サービスセンター

介護福祉士 森田千積	作業療法士 石井晴美
所在地 東京都小金井市桜町1-9-5	他、センター職員一同
TEL：042-381-0006	E-mail： <a href="mailto:Sakuramachi.sc@silk.plala.or.jp">Sakuramachi.sc@silk.plala.or.jp</a>
FAX：042-387-2324	URL：

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	社会福祉法人聖ヨハネ会が1990年に開設した併設型のセンター(通所系利用者約60名/日の規模)。通所介護、訪問介護、訪問入浴、居宅介護支援の介護保険事業と通所型介護予防事業、地域包括支援センターを小金井市から受託実施している。
----------------------------	---

### 〈取り組んだ課題〉

- 2006年4月の介護保険法改正により個別機能訓練加算が、体制加算から個別加算になることに合わせて、機能訓練評価計画を通所介護計画に組み入れるべく、計画表の再検討を行った。
- 2003年に作成し、実施していた「お楽しみ測定」(アクティブ福祉 in 東京 '06で紹介)を、個別機能訓練加算のための根拠として徹底した。
- 運動器機能訓練部分を要支援1と2の利用者と要介護1～5の利用者に分けて行う仕組みを作った。(要支援の介護予防給付対象者についてはアクティブ福祉 in 東京 '07にて発表した。)

### 〈具体的な取り組み〉

- 通所介護事業でやるべきサービス内容を洗い出し、「お楽しみ測定」結果と共に関節の動きや筋力などを評価し、機能訓練の目標、プログラム内容をA4紙1枚に組み込んだ。
- 非常勤職員を含め、利用者の評価計画の作成者を担当制にし、継続して利用者個別の状態変化に合わせたサービスができることを目指した。
- 「お楽しみ測定」の意味や方法を利用者や職員に周知するため、測定マニュアルの作成、パワーポイントによる説明を行った。
- 午前の活動に転倒予防体操、個別の握力向上のためのグリッパー、個別の立ち座りを組み、午後には個別の移動訓練、選択可能な多くの活動を用意した。

### 〈活動の成果と評価〉

- 1年目の評価計画表を、2年目には更に簡潔に変更し、担当職員がほぼ作成できるようになった。
- 半年ごとに「お楽しみ測定」の9項目をすることが年間の業務として定着し、職員個々の測定技術も向上した。
- 利用者にとって、機能測定(「お楽しみ測定」)をすることが当たり前のことになり、新規利用者の開始時の測定も定着し、当施設を利用することによって、利用者の機能の維持向上ができてきているか否かの検証ができるようになった。
- 機能訓練を意識した活動が定着し、利用者自身が機能訓練を含むデイの活動を通して、楽しみながら今の機能を維持していこうという意識が持てるようになってきた。
- 利用者の機能の状態が分かりやすくなり、介護する上で参考になるとの家族の意見を頂いた。

### 〈今後の課題〉

- 要支援の利用者より、多種多様な状態の利用者なため、効果的な個別訓練内容と仕組み作りを更に検討する必要がある。
- 同様な理由で、測定と評価計画表の作成に時間がかかる。更に効率的な測定手順を検討していきたい。
- 職員の非常勤化にともない、事業内容の変更や各種マニュアルの周知に時間がかかるが、周知のために更なる工夫をしていきたい。

### 【メモ欄】